

令和5年度島根県学力調査結果（概要）について

浜田市教育委員会

1 調査の概要

(1) 目的

学習指導要領における各教科の目標や内容に照らした学習の状況及び学習や生活に関する意識や実態を客観的に把握し、児童生徒に必要な指導・支援を行うとともに、全国学力・学習状況調査等で明らかになった学習指導上の課題の改善状況を検証し、今後の学校における指導と教育施策の一層の改善・充実に資する。

(2) 調査日 令和5年12月5日（火）

(3) 実施対象学年及び実施教科等

小学校5・6年生：国語・算数

中学校1・2年生：国語・数学・英語

※ 全対象学年に、「生活・学習意識に関する調査」を実施

(4) 用語説明

「平均正答率」 各学年・教科において、児童生徒個人が正答した問題の割合（％）を県または市町村単位で平均した値。

「全国」 本調査に参加している全国の自治体を表す。

2 浜田市・島根県・全国の平均正答率及び浜田市の島根県・全国との差

		国語	算数・数学	英語
小5	市平均正答率	65.1	55.0	
	県平均正答率	67.4	55.0	
	市－県	－2.3	±0.0	
	全国平均正答率	69.9	58.3	
	市－全国	－4.8	－3.3	
小6	市平均正答率	59.0	67.9	
	県平均正答率	59.1	67.4	
	市－県	－0.1	+0.5	
	全国平均正答率	66.6	73.8	
	市－全国	－7.6	－5.9	
中1	市平均正答率	57.9	48.9	46.5
	県平均正答率	60.1	51.9	51.0
	市－県	－2.2	－3.0	－4.5
	全国平均正答率	62.0	53.7	54.2
	市－全国	－4.1	－4.8	－7.7
中2	市平均正答率	65.1	42.4	44.4
	県平均正答率	66.1	47.4	47.2
	市－県	－1.0	－5.0	－2.8
	全国平均正答率	67.8	50.1	50.1
	市－全国	－2.7	－7.7	－5.7

〈参考：小学校6年生における令和5年度全国及び県学力調査の平均正答率の差〉

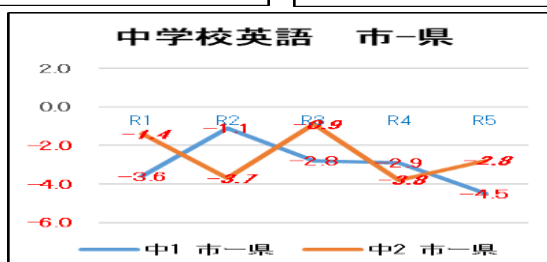
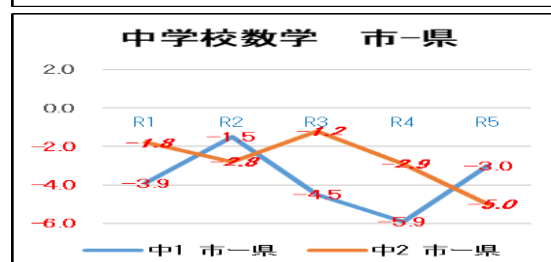
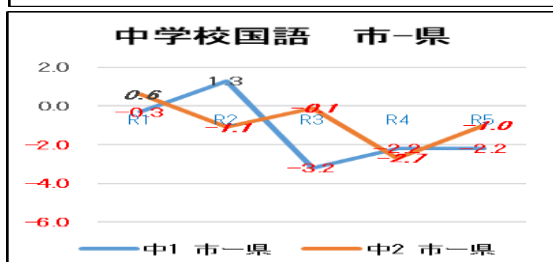
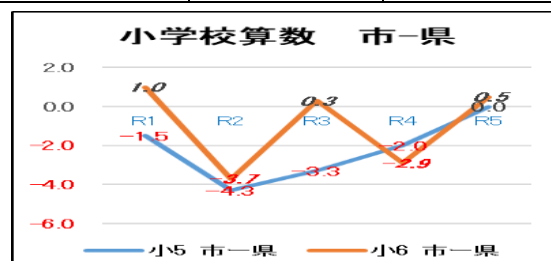
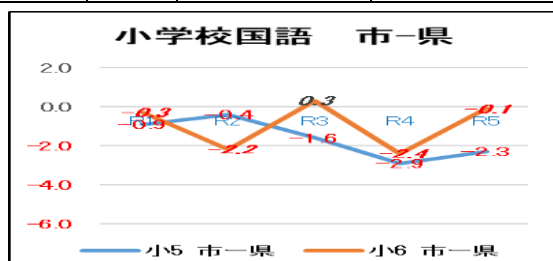
教科	項目	全国学力調査（4月）	県学力調査（12月）
国語	市平均正答率	64.0	59.0
	県平均正答率	65.0	59.1
	市-県	-1.0	-0.1
算数	市平均正答率	58.0	67.9
	県平均正答率	59.0	67.4
	市-県	-1.0	+0.5

比較が可能な小学校6年生の県平均正答率との差は、国語は-1.0P→-0.1P、算数は-1.0P→+0.5Pで年度内における改善の傾向は認められる。また、県平均正答率と同値となっている。

3 島根県と浜田市の平均正答率差の経年比較状況

(1) 年度ごとの県平均正答率差 (○は前年度を上回り、△は下回った教科)

学年	教科	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
小5	国語	-0.9	○ -0.4	△ -1.6	△ -2.9	○ -2.3
	算数	-1.5	△ -4.3	○ -3.3	○ -2.0	○ +0.0
小6	国語	-0.3	△ -2.2	○ +0.3	△ -2.4	○ -0.1
	算数	+1.0	△ -3.7	○ +0.3	△ -2.9	○ +0.5
中1	国語	-0.3	○ +1.3	△ -3.2	○ -2.2	-2.2
	数学	-3.9	○ -1.5	△ -4.5	△ -5.9	○ -3.0
	英語	-3.6	○ -1.1	△ -2.8	△ -2.9	△ -4.5
中2	国語	+0.6	△ -1.1	○ -0.1	△ -2.7	○ -1.0
	数学	-1.8	△ -2.8	○ -1.2	△ -2.9	△ -5.0
	英語	-1.4	△ -3.7	○ -0.9	△ -3.8	○ -2.8



令和4年度に大きな落ち込みがあったが、中学校1年生の英語、2年生の数学以外は概ね回復が認められる。

(2) 調査該当学年の県平均正答率差の経年比較 (○は前学年を上回り、△は下回った教科)

① 現小学校6年

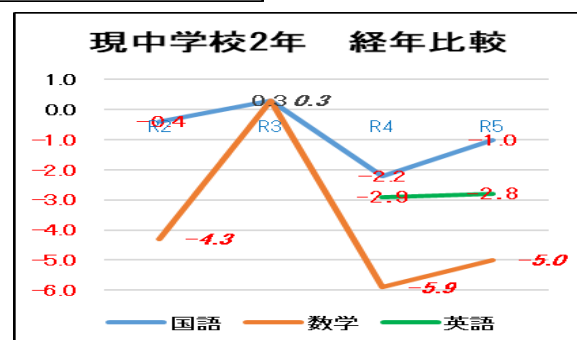
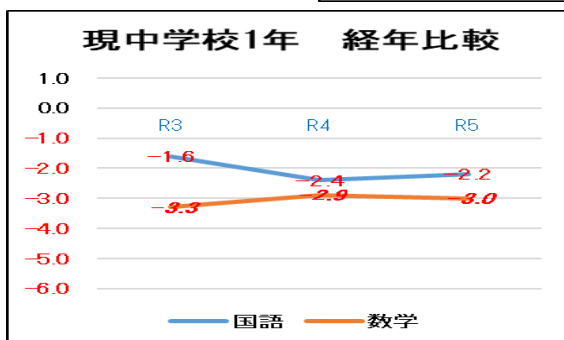
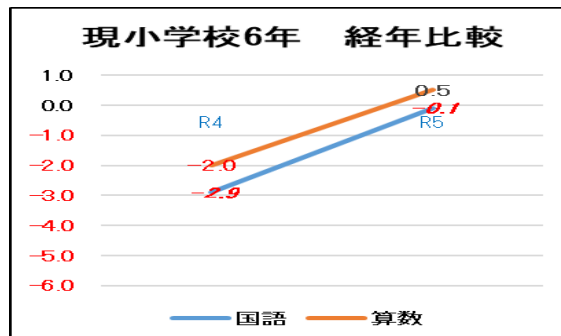
学年	教科	R 4 (小5)	R 5 (小6)
現小6	国語	-2.9	○ -0.1
	算数	-2.0	○ 0.5

② 現中学校1年

学年	教科	R 3 (小5)	R 4 (小6)	R 5 (中1)
現中1	国語	-1.6	△ -2.4	○ -2.2
	数学	-3.3	○ -2.9	△ -3.0
	英語			-4.5

③ 現中学校2年

学年	教科	R 2 (小5)	R 3 (小6)	R 4 (中1)	R 5 (中2)
現中2	国語	-0.4	○ 0.3	△ -2.2	○ -1.0
	数学	-4.3	○ 0.3	△ -5.9	○ -5.0
	英語			-2.9	-2.8



いずれの学年においても、概ね改善傾向にはある。特に現中学校2年生については、中学校1年生時に大きく落ち込んだが、改善は認められる。しかし、数学には課題がある。

4 各教科の状況

(1) 教科の全体的な状況について

※ここでいう「全国」とは、本調査に参加している全国の自治体を表す。

- 小学校の平均正答率について全国と比較すると、国語、算数ともに下回っているが、県との比較では、算数ではほぼ同程度である。
- 小学校5年生については、県平均正答率との差が国語は-2.3 P、算数は同値である。小学校6年生については、国語が-0.1 P、算数は+0.5 Pとなり若干の改善の兆しがみられる。
- 中学校の平均正答率について県及び全国と比較すると、国語、数学、英語ともに下回り、課題がある。

- 中学校1年生については、県平均正答率との差が国語は-2.2P、数学は-3.0P、英語は-4.5Pで特に英語に課題がある。中学校2年生については、県平均正答率との差が国語は-1.0P、数学は-5.0P、英語は-2.8Pで特に数学に課題がある。

(2) 各教科の領域別正答率

- ※ ○：市の正答率が目標値の+5ポイント以上
 -：市の正答率が目標値の-5ポイント以上～+5ポイント未満
 △：市の正答率が目標値の-5ポイント未満

} 実施業者基準による

① 国語（「差」の欄の括弧内の数値は、昨年度の目標値と市の正答率との差を表す）

学習指導要領の領域	学年	平均正答率 (%)				
		島根県	浜田市	目標値	差	
言葉の特徴や使い方に関する事項	小5	74.0	73.6	72.7	+0.9 (-4.1)	-
	小6	56.7	57.1	65.0	-7.9 (-1.1)	△
	中1	57.3	56.7	56.1	+0.6 (+1.1)	-
	中2	77.3	76.2	73.1	+3.1 (+1.5)	-
情報の扱い方に関する事項	小5	35.9	33.1	40.0	-6.9 (-1.5)	△
	小6	43.5	41.9	45.0	-3.1 (-15.0)	-
	中1	41.5	38.5	40.0	-1.5 (+4.0)	-
	中2	51.2	48.7	50.0	-1.3 (-4.8)	-
我が国の言語文化に関する事項	小5	47.4	42.5	55.0	-12.5 (-7.7)	△
	小6	65.2	68.0	70.0	-2.0 (-3.0)	-
	中1	26.7	27.2	30.0	-2.8 (+10.6)	-
	中2	68.3	69.1	61.7	+7.4 (+0.4)	○
話すこと・聞くこと	小5	66.4	61.8	65.0	-3.2 (-7.5)	-
	小6	71.3	89.6	66.7	+7.6 (+3.2)	-
	中1	87.3	87.6	80.0	+7.6 (+1.5)	-
	中2	72.6	73.4	68.3	+5.1 (+0.5)	○
書くこと	小5	59.0	57.1	66.7	-9.6 (-0.9)	△
	小6	54.5	57.3	63.3	-6.0 (-16.0)	△
	中1	54.1	50.5	52.1	-1.6 (-10.9)	-
	中2	48.6	47.7	51.4	-3.7 (-7.1)	-
読むこと	小5	65.2	60.5	65.8	-5.3 (+2.2)	△
	小6	60.6	57.5	61.7	-4.2 (-4.3)	-
	中1	63.2	58.7	58.3	+0.4 (+4.3)	-

	中2	67.5	64.6	63.3	+1.3 (-1.7)	-
--	----	------	------	------	----------------	---

② 算数・数学（「差」の欄の括弧内の数値は、昨年度の目標値と市の正答率との差を表す）

学習指導要領 の領域	学年	平均正答率 (%)				
		島根県	浜田市	目標値	差	
数と計算（小学校） 数と式（中学校）	小5	58.3	58.9	62.1	-3.2 (-4.4)	-
	小6	67.1	68.2	72.1	-3.9 (-11.1)	-
	中1	51.3	48.1	55.5	-7.4 (-7.5)	△
	中2	44.2	39.9	49.6	-9.7 (-12.3)	△
図形	小5	61.6	59.1	68.3	-9.2 (-7.2)	△
	小6	74.7	74.9	72.7	+2.2 (-5.6)	-
	中1	69.6	67.3	72.5	-5.2 (-1.8)	△
	中2	64.1	60.1	64.2	-4.1 (-4.9)	△
変化と関係（小学校） 関数（中学校）	小5	40.0	39.6	51.7	-12.1 (-6.8)	△
	小6	48.3	47.0	62.5	-15.5 (-19.8)	△
	中1	47.9	44.1	51.1	-7.0 (-5.3)	△
	中2	43.7	38.2	50.7	-12.5 (-10.9)	△
データの活用	小5	35.0	36.0	45.0	-9.0 (-16.5)	△

③ 中学校英語（「差」の欄の括弧内の数値は、昨年度の目標値と市の正答率との差を表す）

学習指導要領 の領域	学年	平均正答率 (%)				
		島根県	浜田市	目標値	差	
聞くこと	中1	60.3	57.0	63.8	-6.8 (-1.5)	△
	中2	53.8	51.6	57.8	-6.2 (-3.8)	△
読むこと	中1	51.4	47.0	53.6	-6.6 (-5.7)	△
	中2	51.7	49.2	54.3	-5.1 (-8.1)	△
書くこと	中1	41.9	36.3	47.2	-10.9 (-8.2)	△
	中2	33.5	29.6	37.8	-8.2 (-14.3)	△

(3) 各教科の解答形式別正答率（「県との差」欄の括弧内の数値は昨年度の数値を表す）

形 式		国 語				算数・数学				英 語	
		小5	小6	中1	中2	小5	小6	中1	中2	中1	中2
選択式	目標値	69.6	67.5	63.0	66.4	61.0	68.3	61.3	54.4	60.5	57.6
	浜田市	66.8	64.8	64.8	69.1	57.7	65.8	55.8	46.7	54.8	52.6
	県との 差	-3.2 (-1.5)	-0.6 (-1.8)	-3.8 (-2.6)	-1.9 (-2.3)	-0.1 (-1.3)	0.1 (-2.9)	-2.2 (-4.8)	-4.7 (-3.9)	-4.3 (-2.6)	-2.3 (-3.1)
短答式	目標値	70.0	63.1	53.0	68.5	64.6	78.7	54.6	54.3	43.0	32.5
	浜田市	71.4	55.2	52.8	72.3	57.0	75.9	46.3	42.8	31.3	27.2

	県との差	-1.7 (-4.1)	-1.2 (-2.3)	-0.6 (-1.1)	-0.2 (-3.0)	-0.3 (-2.9)	1.0 (-2.8)	-3.8 (-7.2)	-5.9 (-2.4)	-5.6 (-2.8)	-3.9 (-3.9)
記述式	目標値	63.3	58.3	55.0	50.0	30.0	35.0	30.0	30.0	43.3	40.0
	浜田市	53.3	52.5	55.0	46.0	17.4	23.3	13.4	5.3	31.3	29.3
	県との差	-1.2 (-4.2)	+2.2 (-3.8)	-1.9 (-3.5)	-0.5 (-2.7)	1.1 (-1.5)	-0.6 (-3.2)	-4.3 (-2.2)	-2.4 (-2.9)	-5.6 (-3.3)	-3.9 (-6.1)

(4) 浜田市児童生徒の平均正答率の特徴

県平均正答率と比較して上回っている設問の上位3設問及び下回っている下位3設問の状況は以下のとおりである。

① 国語

【小学校5年生】※ () 内の数値は、県平均正答率との差を表す

問題番号	正答率	解答形式	領域	問題の内容	出題のねらい
3(2)	30.9% (+9.9)	選択	言葉の特徴や使い方に関する事項	言葉の学習	連用修飾語について理解している。
3(5)	53.3% (+6.2)	短答	言葉の特徴や使い方に関する事項	言葉の学習	文章の中で、文脈に沿った漢字を適切に使っている。
4(2)	72.1% (+0.9)	選択	読むこと	物語の内容を読み取る	登場人物の心情について、描写を基に捉えている。
2(2)①	52.2% (-9.2)	短答	言葉の特徴や使い方に関する事項	漢字を書く	第4学年に配当されている漢字を正しく書いている。
4(1)	71.8% (-8.1)	選択	読むこと	物語の内容を読み取る	登場人物の心情について、描写を基に捉えている。
1(1)	64.4% (-8.0)	選択	話すこと 聞くこと	話し合いの内容を聞き取る	話の内容を明確にするための話し手の工夫を捉えている。

【小学校6年生】※ () 内の数値は、県平均正答率との差を表す

問題番号	正答率	解答形式	領域	問題の内容	出題のねらい
3(3)	63.9% (+10.9)	選択	言葉の特徴や使い方に関する事項	言葉の学習	三字の熟語の成り立ちについて理解している。
7	40.5% (+5.7)	記述	書くこと	文章を書く	予想される反論とそれに対する意見を書いている。
7	60.1% (+5.5)	記述	書くこと	文章を書く	指定されている長さで文章を書いている。
5(2)	49.5% (-5.4)	選択	読むこと	説明文の内容を読み取る	叙述を基に文章の内容を捉えている。
5(1)	47.1% (-5.9)	選択	読むこと	説明文の内容を読み取る	文章全体の構成を捉えて、要旨を把握している。
5(3)	27.7% (-5.9)	短答	読むこと	説明文の内容を読み取る	情報と情報との関係について理解し、文章の情報を整理している。

【中学校1年生】※ () 内の数値は、県平均正答率との差を表す

問題番号	正答率	解答形式	領域	問題の内容	出題のねらい
2(2)①	46.6% (+2.3)	短答	言葉の特徴や使い方に関する事項	漢字を書く	小学校で学習した漢字を正しく読んでいる。
1(2)	87.7%	選択	話すこと	話し合いの内容を聞き	自分の考えや根拠が

	(+1.6)		聞くこと	取る	明確になるように、話の構成を考えている。
2(2)②	44.5% (+1.3)	短答	言葉の特徴や使い方に 関する事項	漢字を書く	小学校で学習した漢字を正しく読んでいる。
4(1)	39.0% (-8.5)	選択	読むこと	説明的な文章の内容を読み取る	文章の内容について叙述を基に捉えている。
6(2)	58.1% (-8.2)	選択	書くこと	調べたことをもとにレポートを書く	読み手の立場に立って、文章を整えている。
5(1)	69.6% (-5.2)	選択	読むこと	文学的な文章の内容を読み取る	登場人物の心情について、描写を基に捉えている。
6(1)	51.0% (-5.2)	選択	書くこと	調べたことをもとにレポートを書く	書く内容の中心が明確になるように、文章の構成を考えている。

【中学校2年生】※（ ）内の数値は、県平均正答率との差を表す

問題番号	正答率	解答形式	領域	問題の内容	出題のねらい
2(2)①	56.8% (+5.0)	短答	言葉の特徴や使い方に 関する事項	漢字を書く	小学校で学習した漢字を正しく書いている。
1(2)	86.7% (+4.2)	選択	話すこと 聞くこと	話の内容を聞き取る	資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫している。
2(2)③	94.1% (+3.9)	短答	言葉の特徴や使い方に 関する事項	漢字を書く	小学校で学習した漢字を正しく書いている。
2(1)	61.6% (-7.0)	短答	言葉の特徴や使い方に 関する事項	漢字を読む	第2学年までに学習した漢字を正しく読んでいる。
2(2)②	61.9% (-5.1)	短答	言葉の特徴や使い方に 関する事項	漢字を書く	小学校で学習した漢字を正しく書いている。
5(1)	75.7% (-5.0)	選択	読むこと	文学的な文章の内容を読み取る	登場人物の設定の仕方を捉えている。

② 算数・数学

【小学校5年生】※（ ）内の数値は、県平均正答率との差を表す

問題番号	正答率	解答形式	領域	問題の内容	出題のねらい
3(1)	71.0% (+7.3)	短答	数と計算	小数のかけ算・わり算	小数第一位(純小数同士の乗法)の計算ができる。
4	50.6% (+6.4)	選択	数と計算	小数のかけ算・わり算	小数の乗法と除法において、乗数による被乗数と積、除数による被除数と商の大小関係を理解している。
5	53.0% (+4.7)	短答	数と計算	小数のかけ算・わり算	小数の乗法でも分配法則が成り立つことを理解している。
2(2)	59.4% (-6.2)	短答	数と計算	小数と分数	整数÷整数の商を分数で表すことができ

12	46.4% (-5.6)	選択	図形	合同	る。 既習の四角形について、対角線で分割した三角形を合同の観点で捉え直している。
11(2)	58.8% (-5.1)	短答	図形	四角形の角	4つの四角形の和を理解し、3つの角の大きさから残りの角の大きさを求めることができる。

【小学校6年生】※ () 内の数値は、県平均正答率との差を表す

問題番号	正答率	解答形式	領域	問題の内容	出題のねらい
6(2)	68.2% (+8.2)	短答	数と計算	文字と式	2つの文字を使って表された式で、一方の文字の値から他方の文字の値を求めることができる。
1	84.2% (+4.6)	選択	数と計算	分数のかけ算・わり算	逆数について理解している。
10(1)	89.1% (+4.1)	選択	図形	対称な形	点対称な図形の対応する辺について理解している。
13(3)	54.8% (-5.8)	選択	変化と関係	比と比の値	比を使って、全体の量から一方の量を求めている。
9	75.7% (-4.1)	選択	図形	面積と体積	円と三角形を組み合わせた図形の面積の求め方を示した図から、その求め方にあう式を選んでいる。
4(2)	42.6% (-3.5)	選択	数と計算	分数のかけ算・わり算	比較量、基準量が分数の場合において、比較量が基準量の何倍になるかを求める式を選ぶことができる。

【中学校1年生】※ () 内の数値は、県平均正答率との差を表す

問題番号	正答率	解答形式	領域	問題の内容	出題のねらい
11(2)	38.8% (+1.5)	選択	関数	比例・反比例	比例の関係にある1組のxとyの表から、yをxの式で表すことができる。
15	71.4% (+1.1)	短答	図形	平面図形	三角形を対称移動させたときの図形を作図することができる。
5(1)	11.5% (+0.6)	選択	数と式	正の数・負の数	文字式の表し方を理解している。
11(1)	68.8% (+0.6)	選択	関数	比例・反比例	反比例の表から、yをxの式で表すことができる。
13	39.4% (-9.5)	短答	関数	比例・反比例	具体的な事象の数量関係が反比例であることをもとに、ある視力のすき間の長さを求めることができる。
16(1)	53.3% (-7.2)	短答	数と式	1次方程式	与えられた情報から必要な情報を適切に選択し、処理することができる。
16(3)	20.7% (-6.4)	記述	数と式	1次方程式	適切な事柄を判断し、その事柄が成り立たない理

					由を数学的な表現を用いて説明することができる。
17(1)	13.6% (-6.4)	短答	関数	比例・反比例	事象から数量の関係を見出し、関係についての確に表現できる。

【中学校2年生】※ () 内の数値は、県平均正答率との差を表す

問題番号	正答率	解答形式	領域	問題の内容	出題のねらい
13(1)	86.2% (+1.7)	短答	図形	図形の性質	平行線と同位角、錯角の関係や三角形の内角、外角の性質について理解し、角の大きさを求めることができる。
6(1)	53.4% (+1.2)	選択	関数	1次関数	1次関数の関係を表す表から、傾きや切片の値の正負を判断し、正しいグラフを選ぶことができる。
10	24.0% (+0.3)	選択	関数	1次関数	水そうに入れる水の高さ(深さ)と時間との関係をグラフに表し、読み取ることができる。
7	54.8% (-12.5)	短答	関数	1次関数	1次関数の式から、グラフをかくことができる。
3(3)	42.4% (-9.9)	短答	数と式	連立方程式	$A=B=C$ の形の方程式を解くことができる。
8(4)	40.4% (-9.8)	選択	関数	1次関数	ある直線に平行であることと、1点の座標から1次関数の式を求めることができる。

③ 英語

【中学校1年生】※ () 内の数値は、県平均正答率との差を表す

問題番号	正答率	解答形式	領域	問題の内容	出題のねらい
9(2)	47.1% (+2.6)	記述	書くこと	場面に応じて書く英作文	対話の流れに合った英文を、相手に伝わるように書いている。
7(2)	28.9% (+2.4)	選択	読むこと	長文の読み取り	メールを読み、その概要を捉えている。
1(3)	97.4% (+0.5)	選択	聞くこと	リスニング(内容理解)	絵を適切に表している英文を聞き、その内容を理解している。(人物の紹介)
8(2)	38.9% (-10.4)	短答	書くこと	単語の並びかえによる英作文	文の語順を理解し、正確に書いている。(主語が3人称単数の一般動詞の疑問文)
7(1)	25.0% (-10.0)	選択	読むこと	長文の読み取り	メールを読み、代名詞 them が指す内容を理解している。
10	34.5% (-9.3)	記述	書くこと	3文以上の英作文	自分の家にあるお気に入りのものについて、具体的な説明を、相手に伝わるように書いている。

【中学校2年生】※ () 内の数値は、県平均正答率との差を表す

問題番号	正答率	解答形式	領域	問題の内容	出題のねらい
1(3)	81.9%	選択	聞くこと	リスニング(内容理	絵を適切に表している英

	(+5.0)			解)	文を聞き、その内容を理解している。(～がある[いる]位置の表し方)
4	11.9% (+2.6)	選択	聞くこと	リスニング(さまざまな英文の聞き取り)	対話から必要な情報を聞き取り、資料をもとに英語で答えている。
1(2)	98.3% (+2.2)	選択	聞くこと	リスニング(内容理解)	絵を適切に表している英文を聞き、その内容を理解している。(人の様子と時)
5	40.4% (-8.0)	記述	聞くこと	リスニング(対話文の応答)	英文を聞き、その要点を捉えて自分の考えを書いている。
6(1)①	67.8% (-7.5)	選択	読むこと	語形・語法の知識・理解	対話文を読み、文構造や文法事項を理解している。(疑問詞 where)
2(3)	50.3% (-6.7)	選択	聞くこと	リスニング(対話文の応答)	対話を聞き、対話の概要を捉えて適切に応答している。(何時に終えたのかとたずねられて)

(5) 教科の結果からみられる成果 (○) と課題 (▲)、考えられる指導ポイント (★)

<国語>

小学校5年生

- 出題内容別にみると、「漢字を読む」が県平均正答率、全国平均正答率、業者設定の目標値を上回っている。
- 領域別にみると、「言葉の特徴や使い方やに関する事項」が、目標値との差が-4.1Pから+0.9Pと上昇している。
- ▲ 領域別では、「我が国の言語文化に関する事項」「書くこと」に課題がある。
- ▲ 出題内容別では、「説明文の内容を読みとる」「文章を書くこと」に課題がある。
- ▲ 問題終盤の記述式になると、無解答率が高くなっている。

小学校6年生

- 出題内容別にみると、「漢字を書く」「言葉の学習」「ポスターを作る」「文章を書く」が県平均正答率を上回っている。
- 領域別にみると、「情報の扱い方に関する事項」が、-15.0P→-3.1P、「書くこと」が-16.0P→-6.0Pと昨年度より大きく改善されている。
- ▲ 領域別では、「読むこと」が県平均正答率を下回っている。
- ▲ 出題内容別では、「漢字を書くこと」に、無回答率が高い。
- ▲ 問題終盤の記述式では、無解答率が24.1P→16.0Pと昨年度より改善されてきているがまだ高い。

中学校1年生

- 領域別では、「我が国の言語文化に関する事項」で県平均正答率を0.5P、全国平均正答率を1.8P上回っている。「話すこと・聞くこと」では、県平均正答率を0.3P上回っている。
- 出題内容別では、「話し合いの内容を読みとる」が県平均正答率を0.3P、「漢字を書く」が県平均正答率を0.7P上回っている。
- ▲ 領域別では、「書くこと」「読むこと」に課題がある。
- ▲ 問題終盤の記述式では、無解答率が38.8P→24.6Pと昨年度より改善されてきているがまだ高い。

中学校2年生

- 領域別では、「我が国の言語文化に関する事項」と「話すこと・聞くこと」が県平均正

答率、全国平均正答率、業者設定の目標値を上回っている。

○ 出題内容別では、「話の内容を聞き取る」と「漢字を書く」が県平均正答率、全国平均正答率、業者設定の目標値を上回っている。

▲ 領域別では、「読むこと」「書くこと」に課題がある。

▲ 問題終盤の記述式で、無解答率が高くなっている。

★ 国語についての今後の指導ポイントとして

課題に対して必要な情報を収集して考え、根拠を明確にししながら説明をしていく力(読む力)を付ける取組を強化していく。併せて、自己の考えの根拠を示しながら、一定の条件の下で記述していく力(書く力)も育てていく。

これらのことに迫るために、読解力の育成を目指した指定校の取組への支援を充実するとともに、その取組の成果を各学校へ広げていく。また、図書館活用教育、調べる学習等の取組も継続していく。

また、普段の生活の中で漢字を使うようにしたり、漢字習得のための手立てを考えたりすることで、正しい漢字や文脈に沿った漢字を書く力を育てていく。

<算数・数学>

小学校5年生

○ 県平均正答率と同値である。

○ 昨年度は4領域とも県平均を下回っていたが、「数と計算」「データの活用」の領域はわずかながら県平均を上回っている。

▲ 「図形」領域は県平均比-2.5Pであり引き続き課題である。

小学校6年生

○ 県平均を0.5P上回っている。

○ 昨年度は調査対象である3つの領域とも県平均を下回っていたが、今回は3領域中2領域(数と計算、図形)で県平均を上回った。

▲ 「変化と関係」領域の「比と比の値」については、依然課題が残る。

▲ 概念や性質の理解に裏付けられた基礎的・基本的な内容の習得が不十分。

中学校1年生

○ 令和4年度の全国学力・学習状況調査の数学で最も課題があった(県平均との差が大きかった)素因数分解に関する問題において、今回の県学力調査で以下のように正答率の改善が見られた。また、県や全国との差も大きく改善され、県や全国とほぼ同等となった。各学校における学力調査の結果分析を踏まえた授業改善が適切に行われている様子が窺える。

調査	R4 全国学力・学習状況調査	R5 島根県学力調査
【問題番号】問題	【1】42を素因数分解しなさい。	【3】66を素因数分解しなさい。
正答率	浜田市 (正答率の差)	54.1% (県より-0.1P、全国より+0.3P)
	島根県	45.9%
	全国	54.2%
	52.2%	53.8%

○ 基礎・活用の分類での県平均との差において、「基礎」の問題における県との差は-2.2Pと、大きな差はなかった。これは、昨年度の中1(-5.9P)と比較及び現中1の小6時(-2.8P)からの経年比較、どちらにおいても改善が見られた。

▲ 領域・観点・解答形式別のいずれの項目でも県平均を下回り、全体的に課題がある。

▲ 県平均との差が大きかった課題のある3問は、いずれも「多くの情報の中から必要な情報を収集して考える」文章問題であった。浜田市児童生徒の課題として挙げられていた部分の改善が十分でなく、依然課題となっている。

中学校2年生

○ 調査該当学年の県平均正答率差の経年比較において、R4年度の-5.9PからR5年度は-5.0Pと、中1の頃から改善が見られた。

- 多くの問題では、県よりも無解答率は低かった。
- ▲ 無解答率について、連立方程式の問題や記述問題において県よりも無解答率が高かった。正答率についても、これらの問題で課題が見られた。
- ▲ 県平均との差が大きかった課題のある3問は、いずれも教科書の例題等でも扱うような、基本的な知識・技能を問う問題であった。正答数別のグラフにおいて、県に比べて高正答率層が少なく、低正答率層が多かった状況からも、基本的な知識・技能の定着に課題が見られる。

★ 算数・数学についての今後の指導ポイントとして

児童生徒自らが問題解決に向けての見通しをもち、数学的な表現を用いて筋道を立てて図等を活用しながら説明し合う学習を重視することや、適用問題の確実な実施等の取組により、多くの問題解決体験をする中で、概念や性質に裏付けられた知識及び技能を習得することが必要である。

これらのことに迫るため、指定校の取組への支援を充実するとともに、その取組の成果を各学校へ広げていく。

<英語>

- 経年比較が可能な中学2年生について、正答率は依然県平均を下回っているが、県との差は縮まった。
- 問題の内容別に見ると、「リスニング（内容理解）」は、中学校1・2年生ともに目標値を上回っており、中学校2年生は県平均を上回っている（県平均との差は、中1：-2.0P、中2：+1.9P）。
- ▲ 一方で、「リスニング（対話文の応答）」は、中学校1・2年生ともに目標値を10P以上下回っており、県平均と比較しても4P以上下回っている（県平均との差は、中1：-4.0P、中2：-6.7P）。やりとりのある言語活動（相手の発言を受けて自分の考えを英語で伝える等）の経験が不足していると考えられる。
- ▲ 領域別では、県平均正答率と比較すると、中学校1・2年生ともに「書くこと」に最も課題があった（中1：-5.6P、中2：-3.9P）。また、英作文の問題における無解答の割合が県よりも多かった。

★ 英語の今後の指導ポイントとして

「英語を使って何ができるようになるか」を明確にした単元ゴールを設定するとともに、目的、場面、状況を設定し、生徒が英語を使って気持ちや考えを伝え合うなど、やりとりのある言語活動を充実させていくことが必要である。

教科書等を読む際には、1文ずつ理解するのではなく、初見のまとまった英文から必要な情報を取り出すために、目的を持って読むなどの活動を繰り返していくことが必要である。

自分自身のことについて、また聞いたり読んだりしたことについての感想や意見のやりとりをし、その内容について、まとまった英語を書くといった領域統合の活動をしていくことが必要である。

5 生活・学習に関する意識調査の状況

(1) 浜田市総合振興計画及び教育振興計画の目標項目について

浜田市総合振興計画では評価対象学年を小学校5年生、中学校2年生としていることから、この報告では対象学年を小学校5年生、中学校2年生とした。また、浜田市教育振興計画の目標値は全国学力・学習状況調査により達成度を評価することにしてはいるが、ここでは参考までに県学力調査結果による数値をあげている。

※数値の下線は改善が認められたもの、()内の数値は、県肯定率との差を表している

質 問 項 目	小学校5年		中学校2年	
	令和4	令和5	令和4	令和5

平日に1日あたり2時間以上テレビゲームをしている	51.6 (+6.3)	52.4 (+6.8)	49.3 (+7.1)	<u>40.6</u> (+0.1)
学校に行く日は、学校の授業時間以外に1時間以上勉強をする	49.1 (-7.0)	<u>51.5</u> (-0.7)	42.6 (-4.8)	<u>46.6</u> (+1.5)
自分で勉強の計画を立てて勉強をしている	65.0 (-0.9)	<u>65.1</u> (-1.4)	62.3 (-4.9)	<u>63.3</u> (-5.0)
将来の夢や目標をもっている	76.8 (-2.4)	<u>81.2</u> (+1.0)	68.7 (+4.5)	66.4 (+0.8)
自分にはよいところがあると思う	63.1 (-6.0)	<u>66.7</u> (-5.5)	72.1 (+3.1)	68.9 (-3.6)
地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある	40.2 (-5.5)	<u>40.8</u> (-4.2)	36.4 (-5.3)	34.8 (-4.6)
総合的な学習の時間では集めた情報を課題に沿って整理して考え、発表する学習に取り組んでいる	59.6 (-0.9)	57.6 (-5.0)	62.3 (-8.1)	<u>65.5</u> (-4.5)

① 小学校5年生

前年度の調査との肯定率比較では、7項目の内5項目において改善が認められる。

県肯定率との差では、「平日に1日あたり2時間以上テレビゲームをしている」について、+6.3P→+6.8Pと若干増加している。また、「自分で勉強の計画を立てて勉強している」が-0.9P→-1.4P、「総合的な学習の時間では集めた情報を課題に沿って整理して考え、発表する学習に取り組んでいる」について-0.9P→-5.0Pと差が広がっている。しかしながら、他の項目については差が縮小している。特に、「将来の夢や目標をもっている」については、県肯定率を上回った。

② 中学校2年生

前年度の調査との肯定率比較では、7項目中4項目において改善が認められる。県肯定率との差では、「自分で勉強の計画を立てて勉強している」について-4.9P→-5.0P、「自分にはよいところがあると思う」が+3.1P→-3.6Pと差が広がっているが、他の項目については差が縮小している。特に、「将来の夢や目標をもっている」については、県肯定率を上回った。

(2) 授業改善に関わって重視している項目について

授業改善の状況を把握するために、小学校は6年生、中学校は2年生について、県学力調査及び全国学力・学習状況調査（中学校は3年生が実施しているため参考値として）の数値をあげ、同一集団での経年比較をしている。

※数値の下線は改善が認められたもの、()内の数値は、県肯定率との差を表している

質問項目	小学校6年生			中学校2年生		
	前年度の 県学調	6年生 全国学調	6年生 県学調	前年度の 県学調	全国学調 (3年生)	2年生 県学調
学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりしている	62.0 (-5.3)	71.8 (-5.5)	<u>67.3</u> (-4.0)	66.8 (-6.6)	80.7 (-1.7)	<u>77.4</u> (-0.3)
自分に合った教え方、教材、学習時間になっている	69.1 (-3.3)	76.7 (-4.6)	<u>77.8</u> (+0.1)	67.8 (-2.4)	78.3 (+0.4)	63.5 (-5.3)
学校図書館を使った授業は、ほかの授業を行うときにも役立っている	61.2 (+0.9)		58.0 (-2.2)	48.8 (-2.4)		<u>55.1</u> (+4.2)
国語の授業は、分かっている	83.6 (-4.6)	79.5 (-4.4)	<u>85.6</u> (-3.2)	86.1 (+0.3)	81.2 (+2.1)	85.3 (+2.0)
算数・数学の勉強は好きだ	49.7 (-6.9)	50.8 (-3.6)	<u>63.6</u> (-2.2)	41.4 (-14.1)	57.4 (-0.9)	<u>44.3</u> (-9.8)
算数・数学の授業は、分かっている	74.0 (-6.2)	70.6 (-4.4)	<u>80.2</u> (-2.4)	71.9 (-4.4)	71.3 (-3.1)	<u>73.2</u> (-3.4)

① 考えを深めたり、広げたりする学習について

前年度調査時と比較して、小学校6年生は62.0P→67.3P(+5.3P)、中学校2年生は66.8P→77.4P(+10.6P)と両学年ともに肯定率は伸びている。また、県肯定率との差も縮小している。

このことから、話し合う活動を通じて考えを深めたり広げたりする授業の取組は成果を挙げてきている。

② 個に応じた学習について

小学校6年生については、前年度調査時と比較して69.1P→77.8P(+8.7P)と伸びており、県肯定率と同率であった。中学校2年生については、前年度調査時と比較して67.8P→63.5P(-4.3P)と肯定率が下がっており、これに伴って県肯定率との差も広がった。

特に中学校において、課題解決に向かうために複数設定された取組を子ども自身が選択して学び、協働して課題を解決していく取組を推進する必要がある。

④ 学校図書館活用について

小学校6年生については、前年度調査時と比較して61.2P→58.0P(-3.2P)と肯定率が下がっており、これに伴って県との差も広がっている。中学校2年生は48.8P→55.1P(+6.3P)と伸びており、県肯定率を上回った。

図書館を活用した授業については学校間で取組に差があるため、この授業を充実させていく必要がある。

④ 分かる授業について

国語については、前年度調査時と比較して小学校6年生は83.6P→85.6P(+2.0P)と伸びており、県肯定率との差も縮小している。中学校2年生は86.1P→85.3P(-0.8P)と肯定率は下がっているが、県肯定率を上回っている。

算数・数学については、前年度調査時と比較して、小学校6年生は74.0P→80.2P(+6.2P)、中学校2年生は71.9P→73.2P(+1.3P)と両学年ともに肯定率は伸びている。これに伴い、県肯定率との差も縮小している。

習得した知識・技能を活用する場面を1単位時間、あるいは内容のまとまりの中で位置付け、習得した知識・技能が他の場面においても活用できるか確かめる学習や習得した知識・技能の定着を図る学習を行うことで、分かる授業を推進していく。

⑤ 算数・数学が好きについて

前年度調査時と比較して、小学校6年生は49.7P→63.6P(+13.9P)、中学校2年生は41.4P→44.3P(+2.9P)と両学年ともに肯定率が伸びており、県肯定率との差も縮小している。

算数指定校を中心に環太平洋大学の前田教授の指導を受け、市内の小中学校へ指導内容を伝えていく取組を今後も継続していく。

6 今後の対応

学力調査結果から明らかになっている浜田市児童生徒の課題は「限られた時間で、多くの情報の中から課題解決に必要な情報を収集して考え、根拠を明確にして筋道を立てて表現(文章、式、図、音声言語など)する力」である。この課題解決に向かって、主として以下の取組を行っている。

○ 教師の授業力向上に向かい、全ての小中学校への学校訪問指導を複数回実施する。その際、以下の点を重視しながら授業改善プランとして示す「子どもの声でつくる授業」に基づき、授業構想段階から関わることで校内研究や授業者への支援となる学校訪問としていく。

- ・ 子どもが問いを見いだしたり連続させたりしていくための取組
- ・ 課題解決に向かうために複数設定された活動を子ども自身が選択して学び、協働して課題を解決していく取組

- ・ 子どもたちが話し合いにより考えを深めていくための視点（何を論点とするのか）を踏まえた教師のコーディネート力を向上させる取組
 - ・ 協調学習における「知識構成型ジグソー法」や「要約学習」、価値ある活動を「たくさんやる」等の手法を取り入れた授業の推進
- 国語を要とした読解力の育成及び小学校算数の授業改善について、指定校の取組を核としながら推進し、成果を各学校へ広げていく。読解力の育成については「要約学習」の取組を広げていく。算数・数学については、算数アドバイザーの環太平洋大学 前田教授の指導を生かした実践が各学校へ広がるようにする。
- そして、限られた時間の中で多くの情報の中から課題を解決するために必要な情報を収集して考え、根拠を明確にししながら筋道を立てて表現（文章、式、図、言葉による説明など）する力を育てていく。
- 「ICTを活用した授業改善指定校」の取組を継続し、授業における一人一台端末の効果的な活用の在り方を各学校に広げる。併せて、ICT機器を活用した授業実践の好事例を授業実践例として公開することも継続する。
- これらのことにより、児童生徒一人一人の学習状況に応じた個別最適な学びの充実や児童生徒同士が考えを共有し話し合いを深めていく授業の実現を目指していく。
- 浜田市教育委員会が指定をする指定校（「協調学習」「図書館活用教育」「読解力育成」「算数・数学授業改善」「ICT 機器を活用した授業改善」）の取組を日々の実践に生かすことができるように、教員に対し指定校の公開授業のいずれかに年1回は参加をすることを求める。
- 浜田市小中連携教育における各中学校区の取組を継続していくことで、浜田市総合振興計画及び教育振興計画の目標項目についての更なる向上を目指す。平均正答率に注目していくことも大切であるが、子どもたちの内面を育てていくことも大切にする。特に「夢や目標をもつ」ことや「自分にはよいところがあると思う」児童生徒を地域や保護者とともに育てていく。
- 家庭学習の時間、メディア接触については、依然として課題がある。今年度は、自分で計画を立てて家庭学習に取り組むことに力を入れ、昨年度と比較して肯定率では若干の改善が見られている。この取組を充実していくことにより、児童生徒自らが家庭で過ごす時間についてコントロールする力を育成していくことを目指し、「家庭学習時間の確保」「メディア接触時間の適正化」、「読書時間の確保」等につなげていく。小中連携教育やPTA活動との連携を深めるなどの取組を継続して、保護者への啓発も強化していく。
- 授業の質を向上させ、学力を育成していくためには、学校、学級が「安心、安全で信頼できる場」であることが欠かせない。「学級づくり」等の取組を各学校が組織的に取り組んでいけるように支援をしていくことに努める。